

◆◆ 特集 文化発信社会に向けて

- ◆巻頭言……………6 新しい国際人・梅原 猛
- ◆てい談……………8 「文化発信社会」に向けて・(出席者)高階秀爾/加藤秀俊/永井多恵子
- ◆論文……………16 地域における文化交流・森 啓
20 世界の文化遺産の修復協力 その方法論について・馬淵久夫
- ◆エッセイ……………24 少年時代の宝物・松村禎三
- ◆事例紹介①…26 木彫刻キャンプと国際交流・富山県井波町
事例紹介②…30 大道芸ワールドカップイン静岡1993 「街はみんなの劇場だ」
・静岡市商工部観光課
- ◆解説……………34 文化政策推進会議が「文化発信社会」の構築について提言
・文化庁長官官房総務課文化政策室
37 「映画芸術振興に関する調査研究協力者会議」について・文化庁文化部芸術課
38 世界遺産条約に対する我が国の取組について・文化庁文化財保護部記念物課
41 やさしい教育用語の解説

●特別記事 これからの幼稚園施設

- 42 これからの幼稚園施設づくり・大臣官房文教施設部指導課
- 寄稿44 幼稚園教育の展開と施設整備に期待して・齋藤智子
- 46 これからの幼稚園施設整備の課題・小川信子
- 事例紹介①48 快適な保育環境づくり・静岡大学教育学部附属幼稚園
事例紹介②52 ひと・みどり・ふれあいの幼稚園・大阪府美原町立みはら大地幼稚園
事例紹介③56 開かれたかかわりの深まりを求めて・東洋英和幼稚園

- | | | |
|----|---|--|
| カラ | <ul style="list-style-type: none"> 1 知の宝庫—博物館
・大分県立宇佐風土記の丘
歴史民俗資料館(大分県) 4 まつり風土記・天津司舞(山梨県) 表2 名作シリーズ・阿弥陀聖衆来迎図 表3 第5回「文部時報」フォトコンテスト
入賞作品発表 | <ul style="list-style-type: none"> 70 都道府県発—教育・学術・文化ニュース
・山梨県・長崎県 72 こんにはにっぽん
・ヘラス・クマラゲ・ウパーリ・サマラシंगा 74 科学はいま・コンピュータはどこまで速くなるか?
—超並列コンピュータへの挑戦 76 ぼくたち、わたしたちのウィークエンド
・大阪・海遊館 78 海外教育ニュース 80 ふるさとこのうた・串本節 82 私の本棚から・葛西瑛子 83 お知らせ 84 編集後記 |
|----|---|--|

- 60 人・この道・赤木春恵
- 61 教育・文化と地域づくり④・山口県美東町
- 64 霞が関トピックス
- 66 焦点—文教施策

新しい国際人

●国際日本文化研究センター所長 梅原 猛

先日、新たに外交官として諸外国に赴任する人たち、日本の宗教の話をしてほしいということ、

外務省で話をしたが、大変好評であり、来年も是非してほしいという。外交官を志すのであるから、外国のことはよく知っているが、日本についてはあまり知らない。もちろん、日本の宗教については日本史の授業で多少習うものの、それは歴史として教えられるのであり、宗教として教えられるのではない。それで、外交官として赴任しても、例えば、「あなたの宗教は」と聞かれて困るというのである。

もっとも多くの日本人の宗教は仏教と神道である。仏教と神道といっても、初詣や困ったときには神様に参り、家は仏教のある宗派の檀家なので、葬式は仏教であるという程度である。それで「仏教と神道」と答えると、ヨーロッパやアラブの「一神教を信じる人」に、「仏教と神道の両方を信じているのはおかしいですね。仏教を信じていたら神道を信じられないも

た。夏目漱石の小説に、主人公が、もう洋書を読まなくなつたといつて嘆く話がある。洋書を読まなければ、もうインテリではなくなつてしまうのである。たしかにこのような国際派の知識人の努力によって日本は西洋の文化、特に近代の西洋で起こつた科学技術文明の採用に成功し、今のような経済大国になつたのであるが、今の日本のおかれた立場で国際化を考えると、かつての国際化ということとは少し意味が違ってくるようである。かつて西洋に追いつけ追い越せの時代においては、国際化ということはすなわち西洋化であった。英語をうまく話し、西洋のことを知っていれば日本のことは何も知らなくても少しも恥ずかしいことではなかつた。しかし今、一応西洋の文化の移入を終えた日本は、別の意味の国際化が必要である。

日本が国際的に西洋諸国のみならず東洋の諸国、あるいはアラブやアフリカの諸国とつき合っていくためにはただ英語が達人だけではなく、それぞれの国の事情とともに、自らの国のことを知らねばならない。国際的な交流において、外国の人は必ず日本のことを尋ねてくる。日本の宗教は何か、禅とは何か、俳句とは何か、日本がこのように短期間に西洋文明の採用に成功して経済大国になつたのはなぜかなどいろいろな質問をしてくるのである。それに対して筋の通つた答えができなければ、国際人とは言えない。



うめはら・たけし 宮城県出身。専門分野、哲学。立命館大学教授、京都市立芸術大学教授・学長等を経て、昭和62年5月から現職。平成4年度文化功労者。著書「隠された十字架」(毎日出版文化賞)、「水底の歌」(第1回大佛次郎賞)など。

のであり、神道を信じていたら仏教は信じられないものだと思いますよ」と言われる。また「無宗教です」と言えば、何か危険な思想の持ち主のように見られる。こういうときにどう答えればよいか。日本の宗教、特に仏教と神道について知識を与えてほしいというのである。

外務省の役人になるのはいわゆる国際派の人であるか、あるいは国際性を目指そうとする人である。かつて日本では国際派といえば、巧みに英語を話し、海外、特に欧米の文化に強い憧れをもつ人であった。おそらく、今の一万円札に描かれる福沢諭吉はこの国際派の第一号というべき人であろう。彼こそは明治政府のつた日本の外交方針である開国の精神の権化のような人であろう。日本のある有名な書店は福沢諭吉のヒントによってできたものであるが、新しい洋書を輸入する会社である。かつては新しい洋書の香りを身につけることがインテリの条件であつ

私の専門とするのは哲学である。日本の哲学者はほとんどすべて外国の哲学者のみを研究し、自国の哲学についてほとんど何も知らない。私の師に当たるとある先生は、西洋の哲学について知らないことはないというほど博学であつたが、日本の思想についてはほとんど知らなかつた。ところが、その先生が外国へ行き、外国の大学で講義をしたのは法然に就いてであつた。法然について、その先生が浄土宗の檀家であること以外にはほとんど勉強しているとは私には思えなかつたが、西洋の大学でデカルトやカントの話をするわけにはいかず、法然の話をしたのであろう。

この先生の例で考えても、国際的に通用する学者であるためには日本の思想を知らなければとても一流の学者として通用しないであろう。前述の書店が国会図書館にある明治時代の刊行物をすべてマイクロフィルムにしたのはまさに今の時代にふさわしい壮挙であるが、それは国際性の意味の変化に対応するものであろう。

国際語である英語を流暢に操り、外国のことについて知識があり、そのうえ自国の文化や歴史について広く深い知識をもつことはまことに困難である。私は前者の点で落第であるが、これからの人たちはこのような矛盾より、二面を両立させねば真の国際人とはいえないであろう。

特集 文教施策 の 進展 平成6年度の展望

総説／文教施策の総合的推進／
生涯学習／初等中等教育／高等
教育／私立学校／学術研究／社
会教育／スポーツ／文化／国際
交流・協力／文教施設／参考

人・この道 平山郁夫

教育・文化と地域づくり 岩手県三陸町
都道府県発—教育・学術・文化ニュース
栃木県・千葉県

★新連載
'96アトランタ—我が国競技スポーツの最前線
JOC

編集後記

▽今日、国民の文化への志向が
つてないほど高まってきたこと
とや文化の発信と交流を通じて
国際社会への貢献も強く求めら
れていることから、「文化発信社
会」を構築することが必要とされ
ております。
今月号の特集のテーマは、この
文化発信社会に焦点を当て、「文化
発信社会に向けて」としております。
昨年が、折しも文化庁の設置二
五年であったことから本誌におい
ても昨年一二月号で「文化庁設置
二五年」を特別記事とさせていた
だいております。
また、昨年一月に公表された
「平成五年度 我が国の文教施策」
(白書)においては、文化発信社会
が副題として掲げられているこ
ろであります。
本特集が、「文化発信社会」の構
築の必要性や今後の課題等につい
て、更に御理解を深めていただ
く一助となれば幸いです。
▽越年となっていた平成六年度の
政府予算案編成が進められていた
先月中旬に、東京は実に二十数年
ぶりという大雪が降り、文部省の
中庭にもドッサリと雪が積りま
した。いろいろな出来事がありま
した今年度も今月で最後であります。
来月号からいよいよ平成六年度
の内容となります。本号に新年度
における特集テーマ、各種記事の
企画の予定について紹介させてい
ただいております。
新年度においても文教施策の重
要な課題等を、分かりやすく、タ
イムリーに取り上げてまいりたい
と考えております。
引き続き御愛読のほど、また四
月からの新人の方にも御紹介のほ
どよろしく願いたします。
(A・S)

投稿歓迎

●投稿規定
①一件につき四〇〇字以内 ②住所、氏名、年齢、職業、電話番号
を明記(誌上匿名可) ③掲載分には薄謝進呈
※文章を一部手直しさせていただくことがあります。
●送り先
〒100東京都千代田区霞が関三—二二二
文部省大臣官房政策課「文部時報」編集部

●著作権所有—文部省◎
●発行所—株式会社 きょうせい
本社 〒104 東京都中央区銀座7丁目4番12号
(営業所) 〒162 東京都新宿区西五軒町4—2
電話 03—3268—2141(代表) 振替口座 東京9—161番
●印刷所—株式会社行政学会印刷所

平成6年3月10日印刷
平成6年3月10日発行
定価550円(本体534円)(〒71円)
年間購読料6,600円
・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます。
・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはほとりの書
店にてお願いします。

●本誌の掲載文のうち、意見にわたる部分については、それぞれ筆者個人の見解であることをお断りいたします。